

美波町回帰率向上拠点計画

目次

1. 実施体制	2ページ
2. 事務の実施体制	3ページ
3. 基本的な方針	3ページ
4. 目標	8ページ
5. 目標の達成状況の評価	12ページ
6. 文化資源保存活用施設	13ページ
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	16ページ
8. 計画期間	28ページ

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	日和佐うみがめ博物館 カレッタ	所在地	徳島県海部郡美波町日和佐浦370-4
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	美波町	所在地	徳島県海部郡美波町奥河内字本村18-1
	代表者	影治 信良		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 教育委員会（文化振興、博物館所管）、産業振興課（観光振興） 【連携する部署】 産業振興課（産業振興全般）、政策推進課（地域活性化、SDGs等）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	美波町観光協会	所在地	徳島県海部郡美波町奥河内字寺前493-6
	代表者	網干 和義		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	美波町商工会	所在地	徳島県海部郡美波町奥河内字寺前493-6
	代表者	岡本 裕二		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	四国の右下観光局	所在地	徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1
	代表者	中東 覚		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

美波町観光協会は拠点施設の文化資源を活用したエコツーリズムを計画、実施します。美波町商工会は来訪者が町内商店と拠点施設を回遊するような事業を計画、実施します。四国の右下観光局（DMO）は拠点施設の取組について宣伝広報を行いながら、美波町観光協会が計画したエコツーリズムの販売を行います。計画実施に際しての事務局的な位置づけを美波町産業振興課（観光部局）及び、教育委員会（文化振興）が担い、共同申請者や町内の各事業者との連絡調整を図ります。

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

・美波町（旧日和佐町）は、昭和25年世界で初めて本格的なウミガメの保護に取り組んだ歴史をもっています。昭和42年には日本で初めてとなるウミガメとその産卵地が国の天然記念物に指定を受け、昭和60年に世界で唯一のウミガメ専門の博物館「日和佐うみがめ博物館カレッタ」をオープンさせました。昭和63年には日本で初となる海亀国際会議が当地で開催され、平成7年にはウミガメ保護条例を制定し、現在もウミガメ保護に取り組んでいます。

・拠点となる「日和佐うみがめ博物館カレッタ」は国の天然記念物に指定されている大浜海岸前に立地し、美波町が現在まで取り組んできたウミガメ保護や共存の取組を周知し、人間と自然との共存について啓発する役割を果たすためにウミガメの飼育を行っており、ウミガメの生態や進化の歴史を学べる資料の他、子ガメから大ガメまで飼育しており、約100点の展示を行っています。

・主要な文化資源は、世界最高齢のアカウミガメ「浜太郎」を含め、現在保護飼育しているウミガメ、貴重なウミガメの剥製が主要な文化資源です。



3-1-2. 来訪客の動向

美波町の人口約6500人に対して、町内に四国八十八ヶ所霊場二十三番札所「薬王寺」があることからお遍路や厄除け参拝に来られる方が多く、来訪者数は年間約87万人となっています。ウミガメの上陸産卵シーズンである5月中旬から8月中旬には、来訪者全体で約23万人が訪れますが、来訪者の大部分を占める日本人お遍路は自家用車やバス、公共交通機関等を使う方も多く、次の札所へ行くことを優先し滞在、回遊しないことが以前から課題となっています。来訪者数に対して宿泊者数は年間約2万人であり、通過型観光地となっています。

一方、近年増えている外国人お遍路の多くが歩き遍路です。次の二十四番札所「最御崎寺」まで約70k

m離れていることもあり、多くの方が次の札所までの長距離に備えるため、当町で一旦足を止め、身体を休めています。外国人の歩き遍路（台湾約50人、香港約60人、欧米豪270人）の多くは日本人とは違い、巡礼をしながらでも興味ある場所に立ち寄る傾向があり、「日和佐うみがめ博物館カレッタ」に訪れる外国人来訪者も増えています。

「日和佐うみがめ博物館カレッタ」への入館者数は、平成21年には当町を舞台としたNHK連続テレビ小説「ウェルかめ」が放送され5万人強の入館者がありましたが、その後減少し、平成24年には2万人強まで落ち込みました。その後展示内容の一部見直しなどを行い平成27年には3万人強まで持ち直し、昨年度の入館者は約3万6千人となっています。うち幼児から高校生が約36%となっています。また国の観光戦略の影響により近年は外国人入館者が増えていましたが（約200人）、現在は新型コロナウイルスの影響により外国人来訪者は皆無となっています。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

近県では新たに高知県室戸の廃校水族館、また香川県の四国水族館がオープンし多くの入場者を集めています。以前からある高知県の桂浜水族館や香川県の新屋島水族館も根強い人気があります。徳島県には大型の水族館がありませんが、ウミガメと近海の魚を同時に展示している「うみがめ博物館カレッタ」は、徳島県内で水族館の役割も果たしています。

ウミガメに関する文化資源保存活用施設としては、国内には屋久島うみがめ館や小笠原海洋センターなどがあり、それぞれの地域で、保護体験活動やレクチャーなどを通じてエコツーリズムの中核を担っています。

「うみがめ博物館カレッタ」は、ウミガメ専門の博物館としては世界で唯一であり、進化の歴史から生態を学べる展示、生まれたばかりの子ガメから世界最高齢の大ガメの飼育など、ここにしかない展示を行っており、他のウミガメ関連施設と比べて、年間を通してウミガメに特化した専門的・学術的な解説・紹介ができる環境を有しています。また学芸員によるウミガメの保護活動や研究を行っており、当館のシンボルである世界最高齢のアカウミガメ「浜太郎」の子孫を残すための取組を現在行っています。当町は町営の博物館を有するだけでなく、ウミガメ保護条例を制定し町ぐるみでウミガメ保護の先進的な取組をおこなってきました。しかし、当館は保護体験活動やレクチャーなどの取組を通じた地域のエコツーリズムの拠点としての機能を十分発揮できていません。

3-2. 課題

課題1：美波町のエコツーリズムの拠点としての役割を果たせていません

当町は、昭和25年世界で初めて本格的なウミガメの保護に取り組んだ歴史をもっており、日本で初めてウミガメと産卵地が国の天然記念物（大浜海岸のウミガメおよびその産卵地）となっていますが、その歴史が現在の保護活動に至るストーリーを十分に伝えられていません。当館が拠点となって、このような当町の他に類のない歴史を生かしたエコツーリズムを進めていくことが必要です。



課題2：ウミガメ専門の博物館にふさわしい解説・紹介ができていません

ウミガメの生態はまだまだ不明なことも多く、年々新しい学術発表がされています。現在の展示内容は20年前のもので今となつては不適切な表示もあり、ウミガメ専門の博物館でありながら、ウミガメのことについて正しい解説が出来ていません。また飼育設備に関しても同様で、現在の視点で見るとウミガメに負担のかかる飼育環境となっています。



また、施設が老朽化し様々な部分にほころびが出てきています。20年前には体験型観光、エコツーリズムに関する考えや経験もなく、それらに対応した施設のつくりになっていません。また保護や飼育研究をするためのバックヤードスペースも老朽化しており、来訪者に保護の現場を観て頂けるような状況になっていません。混獲などで保護するウミガメが増えていますが、飼育設備は不足しております。施設全般にいえませんが、特に屋外スペースに屋根等がなく、天候によっては来館者が快適に展示をみられる環境が整っていません。また一部砂利道や段差などもあり障害者への対応もできていません。

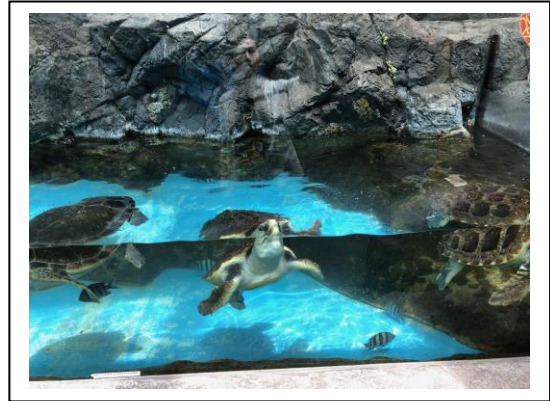
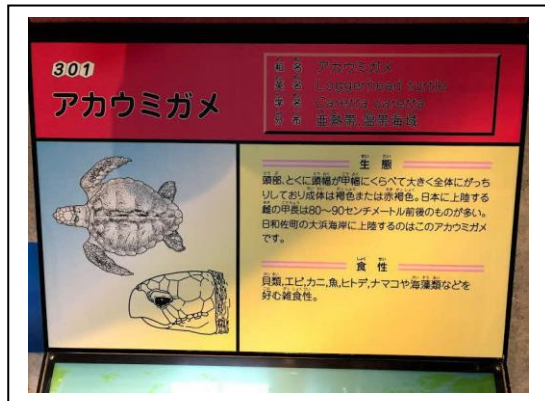


課題3：当館と当町のウミガメ保護の取組のファンになってもらう仕掛けがありません

当町へ訪れる来訪者約87万人のうち当館へ訪れる方は3万6千人であり、約4%と低くなっています。また、当町の宿泊者数は2万人であり、来訪者の2.3%にとどまっています。1度の来訪で短時間で通過していくのではなく、長期滞在してウミガメ保護について深く理解・体験してもらう、オンライン等で継続的に情報を提供することで、当館・当町のファンになってもらい、ウミガメのように回帰率を向上することが必要です。

課題4：外国人観光客への対応ができていません

年々増加している外国人観光客に対する解説表記が不足しています。そのことによって特に環境意識の高い欧米豪の外国人からは、狭いスペースで飼育していることに関して動物虐待と勘違いされることもあり、博物館の活動が正しく伝わっていません。また当町で一番多いアジア圏（台湾、香港）からの来訪者に対する表記は全くできていません。



3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項1：世界一の歴史を体感できるエコツーリズムの実現（課題1 関連）

当町は世界で初めてウミガメの保護に取り組んだ歴史があり、「日和佐うみがめ博物館カレッタ」において、その意義を正しく伝えるために、展示、解説、グラフィックなどを見直します。また、このような歴史・ストーリーを核としたエコツーリズムを、当町全体で推進していくための拠点として、①当館内におけるレクチャーや体験活動の充実、②海岸における保護活動との連携、③国内外のウミガメ保護活動との連携に取り組めます。

取組強化事項2：現在の学術研究にあわせた展示内容・展示環境の改善（課題2 関連）

子どもから大人までが、ウミガメの生態や保護活動などについて学ぶことができるよう、最新の学術内容を取り入れつつ、分かりやすい展示内容や解説・紹介へと見直します。また、現在の学術研究、学識者などの意見を取り入れ、ウミガメの成長過程に適した形状のプールなど、展示環境を改善します。

取組強化事項3：当館・当町への回帰率の向上（課題3 関連）

ウミガメが好きな方や、自然環境・生物保護などを子どもに学ばせたい親子をターゲットとし、長期滞在してウミガメ保護について深く理解・体験してもらうことができるよう、美波町の様々な文化観光資源（海上クルーズ・シーカヤック等のマリンアクティビティ、漁師・海産物等）、住民や事業者を巻き込んだ町全体での気運醸成を図りながら、当館の知見・ノウハウを活用してエコツーリズムとしての魅力を向上させます。また既に美波町観光協会が実施しているウミガメメール配信事業（上陸産卵があるとメールでお知らせする）を活用し、来訪前・来訪後にも当館・当町の保護に継続して接点をもってもらえるよう、オンライン等を活用した取組を進めます。これにより、当館・当町のファンになってもらい、回帰率を向上させます。

取組強化事項4：世界一の歴史を世界へ発信（課題4 関連）

当町に多く訪れていたアジア圏の方々はカメに対して日本人と同じように、神聖な生き物、長寿などの価値観を持つ一方で、食用にするなど生活に密着した身近な生き物として扱ってきました。近年歩き遍路として増えている欧米豪の方々は環境意識が高く、人間が動物を飼育して見せている動物園や水族館に対して否定的な意見を持つ方も多くいます。当町の取り組んできたウミガメ保護の歴史、日本人とウミガメの関わり方を正しく理解してもらうため、ホームページと全ての展示解説について、ネイティブによる多言語化を行い音声案内機器の導入を行います。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

美波町は、NHK 連続テレビ小説「ウェルかめ」や、映画「波乗りオフィスへようこそ」の舞台となるなど、ウミガメ保護の取組や自然景観等が注目を集めています。しかし当町の来訪者のなかで多数を占める葉王寺参拝者に対する周知不足や「日和佐うみがめ博物館カレッタ」の活動自体の周知不足などにより、日帰り・通過型観光が多く、当町が目指す長期滞在型のエコツーリズムを実現できていません。

このため、「日和佐うみがめ博物館カレッタ」が、美波町が現在まで取り組んできたウミガメ保護や共存の取組を周知し、人間と自然との共存について啓発する役割を果たすことで、エコツーリズムの拠点として住民・事業者を巻き込んだ取組を推進します。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

当館を中核としたエコツーリズムを確立することにより、来訪者の満足度、滞在時間、回帰率を高めます。来訪者が長期滞在してウミガメの保護の取組に参画しながら、地元住民等との交流も行うことで、消費が生まれるとともに、人の交流が活性化し、地域活性化につながると考えます。この取組を進めることで、地域一体となって、これまで続けてきたウミガメの保護の取組を再認識し、現状維持にとどまらず、更なる保護の取組につなげ、エコツーリズムを発展させていきます。

4. 目標

目標①：来訪者数（日本人）（課題1・2関連、取組強化事項1・2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）実績値、目標とも拠点となるうみがめ博物館の入館者数としました。現在コロナウイルス感染症の影響により入館者数は対前年度1/10となっています。第2、3波等の影響が分からないため、目標値は徐々に回復する見込みとしています。10年後の来訪者目標値は量より質を求め、施設の規模も考慮し50千人としました。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値	34千人	36千人	20千人	30千人	35千人	40千人	45千人
事業1-①、6-③： 魅力的な展示解説事業			展示内容の現況調査	展示内容の基本計画、実施設計	屋外展示改修	屋内1階展示改修	屋内2階展示改修
事業1-③： ウミガメで繋がる連携事業			ウミガメ保護資料のデータベース化、他施設との連携模索	他施設との連携企画展など	他施設との連携企画展など	他施設との連携企画展など	他施設との連携企画展など
事業1-④、6-②： ウミガメエコツアーリズム実施事業			施設、設備等の現況調査、エコツアーのための基本計画	施設の基本計画、実施設計、エコツアーのモニターツアー実施	バックヤード改修 エコツアー実施	エコツアー実施	エコツアー実施
事業2-②、6-④： 体験型展示施設整備事業			展示内容の現況調査	展示内容の基本計画、実施設計、VR映像撮影	VR映像撮影	屋内1階展示改修	屋内2階展示改修
事業5-①： ホームページ更新事業			現況調査、事例研究、基本計画策定	一部構築、	一部構築	一部構築	完成

目標②：来訪者の満足度（日本人）（課題1・2関連、取組強化事項1・2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）Tripadvisor の口コミ数、総数52件を分母とした「とても良い」16件、「良い」22件の数、目標値はアンケートを実施します。強化事業の効果が始まるのは改修が始まった後の2022年度以降と見込んでおり、毎年度5%増を目標とします。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値		73%	73%	73%	80%	85%	90%
事業1-②、6-①： ウミガメ快適環境整備 事業			ウミガメ飼育の調 査研究、先行事例研 究、学識者等へのヒ アリング	ウミガメに配慮し た飼育施設計画、学 識者等へのヒアリ ング	屋外飼育施設改修	屋内飼育施設改修	
事業3-①、6-⑤： 来館者快適環境調査事 業			施設、設備等の現況 調査	施設の基本計画、実 施設計	屋外施設改修	屋内1階改修	屋内2階改修
事業3-②、6-⑥： キャッシュレス導入事 業			設備等の現況調査、 様々なキャッシュ レスシステムの導 入検討	設備の配置計画 キャッシュレスシ ステムの一部導入	キャッシュレスシ ステムの一部運用	設備導入、設置工事	

目標③：宿泊者数（課題1・3関連、取組強化事項1・3関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法）四国の右下観光局（DMO）が把握する宿泊者数調査							
年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値		2万人	4000人	15000人	20000人	22000人	25000人
事業1-⑤： ウミガメ調査放流事業	適時実施	適時実施	情報発信の仕方等、 先行事例の調査研究	テスト放流実施	適時実施	適時実施	適時実施
事業1-⑥： 宿泊施設連携事業			連携事業のための 基本計画	連携事業のモニター ツアー実施	連携事業実施	連携事業実施	連携事業実施
事業1-⑦： 回帰環境保全事業	適時実施	適時実施	適時実施	適時実施	適時実施	適時実施	適時実施
事業4-②： まちなか回遊事業			店舗等、関係者との 連絡調整	連携事業モニター 実施	事業実施	事業実施	事業実施

目標④：美波町への回帰率（課題3関連、取組強化事項3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）回帰率の指標となるリピート率の実績は年間パスポートの発券枚数としました。目標値はアンケートを実施し、博物館を2回以上利用した方の実数で把握します。5年後の入館者数の5%が回帰すると見込んでいます。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値	48枚	124枚	200人	600人	1050人	1600人	2250人
事業4-①、6-⑦： 海がみえるカフェ整備 事業			施設、設備等の現況 調査	施設の基本計画、実 施設計	屋外施設改修	屋内1階改修	屋内2階改修
事業5-②： オンライン配信事業	ウミガ メール 実施	コロナ で中止	新しい活用方法の 検討	モニター配信	事業実施	事業実施	事業実施

目標⑤：来訪者数（外国人）（課題4関連、取組強化事項4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）実績値については町内観光案内所のカウント数の約半分が博物館に訪れていると仮定しました。現在コロナウイルス感染症の影響により外国人観光客数は対前年度1/10以下となっています。第2、3波等の影響が分からないため、目標値は徐々に回復する見込みとしています。目標は導入予定のキャッシュレス券売機でカウントする予定です。10年後の外国人来館者はコロナウイルス感染症の影響により見通しが難しいが10倍に当たる2千人としました。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値	0.3 千人	0.2 千人	0.05千人	0.2千人	0.5千人	0.8千人	1千人
事業2-①： 世界一の歴史を世界へ 発信事業			展示内容の現況調 査	展示内容の基本計 画、実施設計	事業1-①の展示 解説に合わせた多 言語化	事業1-①の展示 解説に合わせた多 言語化	事業1-①の展示 解説に合わせた多 言語化

5. 目標の達成状況の評価

「日和佐うみがめ博物館カレッタ」及び美波町へ来られる方の回帰率と回遊率を上げるため、博物館と所管する教育委員会、連携する産業振興課、美波町観光協会、美波町商工会、四国の右下観光局で目標達成状況を検証する会議を1回／年開催します。計画の進捗具合、博物館の入館者数、美波町への来訪者数を検証します。さらに具体的な回帰、回遊率を検証するため、何度も博物館を訪れてくれたか（回帰率）の把握はアンケートの実施によって、また町ぐるみの気運醸成度は、ウミガメ保護に地元の様々な事業者等と連携した件数によって把握し検証します。標達成の状況、改善点を協議し3年後の中間評価につなげます。計画終了後も会議は継続し、10年後の目標に向けてPDCAサイクルを継続します。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

当博物館は 3-1-1 で記載したような由来があり、世界で唯一のウミガメ専門の博物館として解説パネル等を活用し、美波町の保護取組の他、ウミガメの生態や進化の過程などの情報が得られるような展示解説をしており、生きたウミガメも多数飼育することで、ウミガメの魅力と自然との共存の大切さを伝えています。



・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

ウミガメの様々な情報や産卵風景を映像で流しています。またウミガメのことを楽しく学べるクイズをモニターを使って実施しています。



・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）案内パンフレットの英語化を行っており、展示パネルの英語化も一部進めています。



6-1-2. 本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

日和佐うみがめ博物館カレッタにおいて、その意義を正しく伝えるために、展示、解説、グラフィックなどを見直します。子どもから大人までが、ウミガメの生態や保護活動などについて学ぶことができるよう、最新の学術内容を取り入れつつ、分かりやすい展示内容や解説・紹介へと見直します。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

貴重となった産卵見学や子ガメの孵化をVRで体験出来るバーチャル体験展示を行います。また来訪者が描いたウミガメが館内を回遊し回帰するような体験展示を導入します。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

当町の取り組んできたウミガメ保護の歴史、日本人とウミガメの関わり方を正しく理解してもらうため、ホームページと全ての展示解説について、ネイティブによる多言語化を行い音声案内機器の導入を行います。欧米豪、台湾、香港からの来訪者が多いことから、英語、繁体字・簡体字について多言語化を行います。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

美波町観光協会と当町は観光振興に二人三脚で取り組んでおり、様々な事業も常に連絡を取り合い常々連携を行っております。一般社団法人四国の右下観光局（DMO）は近隣の一市四町と徳島県が出資し、圏域の観光振興による地域の活性化を目指して平成30年に発足しました。定期的に町と意見交換会を開催し連携を行っております。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

観光協会ではJNTO認定観光案内所（カテゴリー2）を運営しており、訪日外国人も含めた来訪者数の調査、収集を行っております。また四国の右下観光局では、観光協会や町が提供したデータの他、域内施設への聞き取りにより独自の宿泊者数調査を行っており、収集・整理・分析を業務として行っております。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

四国の右下観光局の策定している日本版DMO形成・確立計画には当町の様々な観光政策や文化観光の推進に関する内容も含まれており、「四国の右下観光局評価会議」等による外部評価の実施、PDCAサイクルにおけるKPIの数値化と達成状況の検証も行われています。

6-2-2. 本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

計画実施に際しての事務局的な位置づけを美波町産業振興課（観光部局）及び、教育委員会（文化振興）が担い、美波町観光協会、四国の右下観光局との連携を図ります。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

「日和佐うみがめ博物館カレッタ」の入館者数、アンケート実施にともなう各種データ、美波町観光協会が収集している来訪者データ、四国の右下観光局が収集している宿泊者数とその他の各種データについて、定期的に関係者が集まり分析を行います。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
関係者による目標達成状況を検証する会議を1回／年開催します。各種データを元に、標達成の状況、改善点を協議し3年後の中間評価につなげます。計画終了後も会議は継続し、10年後の目標に向けてPDCAサイクルを継続します。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

薬王寺門前を形成する桜町商店街には以前商店街組合が存在していましたが、商店街の衰退と共に解散してしまいました。近年美波町ではサテライトオフィスの誘致や、門前町再生に取り組んだこともあり、サテライトオフィスや移住者による新規開業のお店が増えています。美波町商工会では既存の商店、新規の商店をつなげようと「薬王寺門前町商店組合」の設立にむけて準備を進めています。また町内の宿泊施設に関しては、以前からある中規模ホテルの他、古民家を活用した魅力的な宿や（お宿日和佐、壺ザ・ホテルなど）、ペットと泊まれる宿（南阿波サンラインモビレージ）、農家民宿（清流の郷）など、特徴ある宿泊施設が多数あります。町としては既存の補助事業などにより、民間事業者による新規開業の支援を行っており、5年以内に次々と新しい宿が開業しています。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

商工会や新たに設立される「薬王寺門前町商店組合」、それらに加入している町内の特徴ある宿泊施設と連携を図り、来訪者の宿泊に繋がるようなナイトタイムエコツアーの造成や、拠点施設周辺の商店での買い物促す、まちなか回遊事業を実施します。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	魅力的な展示解説事業
事業内容	当町は世界で初めてウミガメの保護に取り組んだ歴史があり、「日和佐うみがめ博物館カレッタ」において、その意義を正しく伝えるために、展示、解説、グラフィックなどを見直します。子どもから大人までが、ウミガメの生態や保護活動などについて学ぶことができるよう、最新の学術内容を取り入れつつ、分かりやすい展示内容や解説・紹介へと見直します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	令和4年度：屋外展示の改修、令和5年度：屋内1階展示の改修 令和6年度：屋内2階展示の改修
必要資金 調達方法	6.9百万円（内訳：2.3百万円（町費） 4.6百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号 1-②)

事業名	ウミガメ快適環境整備事業
事業内容	現在の学術発表にあわせ、また環境意識の高い欧米豪の方が見ても楽しめる飼育施設とするため、ウミガメの成長過程に対応出来る水槽やプール、見せ方の調査、研究、設計を行います。それらに基づきウミガメ飼育施設の改修工事を行い、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境を整備します。また当館では初となるアカウミガメ繁殖にむけて、水中での交尾、陸上での産卵が出来るような飼育施設の研究と整備を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～5年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	令和4年度：屋外飼育施設の改修 令和5年度：屋内飼育施設の改修
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（町費） 8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号 1-③)

事業名	ウミガメで繋がる連携事業
事業内容	近隣の水族館（香川の四国水族館、高知の廃校水族館）や姉妹都市であるオーストラリアのケアンズ水族館、ウミガメエコツーリズムの先進地である屋久島うみがめ館や小笠原海洋センターなどとの交流を行います。定期的な企画展示や文化資源のレンタ

	ル、先進地との交流による、学習用教材開発と活用などを通じてウミガメに興味がある方への情報発信、誘客を図ります。また今まで記録してきた保護の資料をデジタルデータ化し、オープンデータ化することで、施設間の交流を促進します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	連携事業の実施数：年1回
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（町費） 2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

（事業番号1-④）

事業名	ウミガメエコツーリズム実施事業
事業内容	単なる飼育展示ではなく、混獲されたウミガメや傷ついたウミガメの保護現場を見せるバックヤードツアー、コロナ禍で必須となったオンラインを活用したウミガメ学習会など、新しい時代のエコツーリズムを企画実施します。観光協会がすでに実施している観光プロダクト開発事業と連携し、令和2～3年度は様々なオンラインツアーがあるなかで、どのような形態が良いのか調査、研究を行います。またツアーの宣伝、販売に関しては四国の右下観光局（DMO）と連携し、ホームページや観光商談会等で実施します。次世代に自然との共存について学びの場を提供するための調査、研究、設計を行い、バックヤードが見学出来るように改修工事を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会、四国の右下観光局
実施時期	令和2～6年度
継続見込	体験料及び町、観光協会、観光局の予算にて継続
アウトプット 目標	観光協会と連携したエコツアーの商品企画の作成数（2本/年） （※商品企画を活用したツアーを複数回催行予定）
必要資金 調達方法	27百万円（内訳：4百万円（内訳：140万円（町費） 260万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））（内訳：4百万円（内訳：2百万円（町費） 2百万円（地方創生推進交付金（内閣府）））（内訳：18百万円（内訳：18百万円（誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業（観光庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

（事業番号1-⑤）

事業名	ウミガメ調査放流事業
事業内容	混獲されたウミガメや傷ついたウミガメを一時期保護し、今後の追跡や個体識別のための標識を取り付け博物館前の大浜海岸から放流を行います。放流するウミガメの里親を募集し、その方には放流後の情報をオンライン配信するなど、当町とのつながりを深める関係人口の増加にも取り組みます。放流は観光客や住民の方と一緒にいき、地域が一体となってウミガメ保護に取り組む気運を醸成します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会
実施時期	令和2～6年度

継続見込	入館料、企業版ふるさと納税及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	放流後の情報発信の回数：随時（他の海岸等で標識が確認できたとき）
必要資金 調達方法	1.5百万円（内訳：1.5百万円（町単独事業））

（事業番号1-⑥）

事業名	宿泊施設連携事業
事業内容	町内の宿泊施設（商工会取りまとめ）と拠点施設が連携し、夜の博物館見学、夜の産卵見学、早朝、深夜の孵化観察など、宿泊しないと体験出来ないエコツアーを観光協会と連携して造成し、来訪者の宿泊増加につなげます。またツアーの宣伝、販売に関しては四国の右下観光局（DMO）と連携し、ホームページや観光商談会等で実施します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会、美波町商工会、四国の右下観光局
実施時期	令和2～6年度
継続見込	体験料及び町、観光協会、商工会、観光局の予算にて継続
アウトプット 目標	連携したツアーの造成数：年2ツアー
必要資金 調達方法	40万円（内訳：40万円（町単独事業））その他1-③地方創生推進交付金事業に含む

（事業番号1-⑦）

事業名	回帰環境保全事業
事業内容	ウミガメが回帰してくれるように、博物館前にあり産卵地でもある大浜海岸の保全活動を定期的に住民ボランティアや企業などと連携し行っています。また産卵シーズン前には町内の関係者（行政関係者、商工業者、漁業関係者、警察、住民代表者など）による保護対策協議会を開催し、美波町のウミガメ保護対策について話し合いを行っており、ウミガメ保護について町全体での気運醸成を図っています。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会、美波町商工会、四国の右下観光局など
実施時期	既に実施済みであり、今後も継続します。
継続見込	町、観光協会、商工会、観光局の予算にて継続
アウトプット 目標	町ぐるみの気運醸成（5年後様々な事業者との連携の10件）
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：3百万円（町単独事業））

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	世界一の歴史を世界へ発信事業
事業内容	世界で最古のウミガメ保護の歴史を世界中に発信し正しく理解してもらうために、全ての展示解説および施設周辺の解説などを見直し、ネイティブによる多言語化を行います。(原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従います。) また音声案内機器の導入、運用も行います。欧米豪、台湾、香港からの来訪者が多いことから、英語、繁体字・簡体字について多言語化を行います。
実施主体	美波町(うみがめ博物館カレッタ)
実施時期	令和2～6年度
継続見込	音声案内機器の運用は、入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	全展示解説の多言語化
必要資金 調達方法	1.7百万円(内訳:0.6百万円(町費) 1.1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号2-②)

事業名	体験型展示施設整備事業
事業内容	上陸産卵数が減ってしまったために、貴重となった産卵見学や子ガメの孵化を博物館及び大浜海岸で年間通じてバーチャル体験(VR等)できる展示を行います。また来訪者が参加できる体験展示(自分が描いたウミガメが館内を回遊するなど)を導入し来館者の再来館を促します。令和2～3年度は様々な機材やソフトがあるなかで、どのような形態や機材が相性が良いのか調査、研究を行います。産卵や孵化のタイミングと調整しながらVR等で上映する映像の撮影を行います。
実施主体	美波町(うみがめ博物館カレッタ)
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	体験展示の数:2箇所整備
必要資金 調達方法	4.9百万円(内訳:1.7百万円(町費) 3.2百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	来館者快適環境整備事業
事業内容	来訪者が快適に過ごせるような施設とするため、屋内、屋外の環境について快適化を図るための調査、研究、設計を行います。また館内のトイレについても改修のための設計を行い、来訪者が快適に過ごせるような施設全体の改修工事を行います。
実施主体	美波町(うみがめ博物館カレッタ)

実施時期	令和2～6年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	令和4年度：屋外施設の改修、令和5年度：屋内施設1階の改修 令和6年度：屋内施設2階の改修
必要資金 調達方法	32.8百万円（内訳：11百万円（町費） 21.8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号3-②)

事業名	キャッシュレス導入事業
事業内容	インバウンド、ウイズコロナを見据え、現在の現金による対面チケット販売を見直し、キャッシュレス、チケットレスの入館方法を検証します。また検証結果を反映し来訪者数を正確にカウントできるシステムの設計を行い、構築及び整備を行います。また設備導入が完了する2023年までに、先行してスマホでチェックインできるシステムやその他のキャッシュレスサービスの導入検討を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	キャッシュレス設備の導入
必要資金 調達方法	1.5百万円（内訳：0.5百万円（町費） 1百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	海がみえるカフェ整備事業
事業内容	入館者が何度も訪れたいような空間として、海岸前に建っている立地を活かし施設内にカフェを作ります。施設の現状調査、研究、設計を行い、カフェスペースの整備を行います。またオリジナルグッズの企画開発を行い、カフェでの販売を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～6年度
継続見込	グッズの企画開発に関しては入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	令和4年度：屋外施設の改修、令和5年度：屋内施設1階の改修 令和6年度：屋内施設2階の改修、オリジナルグッズ開発数：年1個
必要資金 調達方法	2.4百万円（内訳：0.8百万円（町費） 1.6百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号4-②)

事業名	まちなか回遊事業
-----	----------

事業内容	まちなかに点在するウミガメ（マンホールや壁画など）を巡って探す既存の町歩きマップ（カメップ）を、来訪者が飲食、買い物を促進するため、美波町観光協会、美波町商工会と連携しリニューアルします。また拠点施設周辺の店舗等との連携による割引クーポンを発行します。完成したマップと割引クーポンを拠点施設や周辺店舗等に配布し、来訪者の回遊を促進します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会、美波町商工会
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町、観光協会、商工会の予算にて継続
アウトプット目標	クーポン参加店舗数：10店舗
必要資金調達方法	16百万円（内訳：8百万円（町費） 8百万円（地方創生推進交付金（内閣府））） ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号5-①）

事業名	ホームページ更新事業
事業内容	現在のホームページをリニューアルし、今後取り組むオンライン配信やエコツアーリズムなどの情報発信と親和性の高いシステム構築を行います。また改修中の状況をその都度更新し、5年間かけて情報発信を行います。アジア圏、欧米豪のターゲットを見据えネイティブによる多言語化を行います。5年後には全館リニューアル完成にあわせてホームページも完成させます。観光協会、商工会、四国の右下観光局（DMO）との相互リンク、各団体との連携によるイベント時における情報発信等、広くPR出来る方法を検討します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和2～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット目標	改修状況に合わせた情報発信（4回／年）、5年後のホームページ完成
必要資金調達方法	110万円（内訳：37万円（町費） 73万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

（事業番号5-②）

事業名	オンライン配信事業
事業内容	既に美波町観光協会が実施しているウミガメメール配信事業（上陸産卵があるとメールでお知らせする）を活用し、来訪前・来訪後にも当館・当町の保護に継続して接点をもってもらえるよう、オンライン等を活用した取組を進めます。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）、美波町観光協会
実施時期	既に実施済み、新たな運用方法について検討し令和2～6年度実施
継続見込	入館料及び町、観光協会の予算にて継続

アウトプット 目標	年12回配信
必要資金 調達方法	50万円（内訳：25万円（町費） 25万円（地方創生推進交付金（内閣府）））※国の 予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等につ いて検討します。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号6-①)

事業名	ウミガメ快適環境整備事業
事業内容	事業番号1-②で実施した調査、研究、設計に基づき、ウミガメ飼育施設の改修工 事を行い、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境を整備します。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和4～5年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	令和4年度：屋外飼育施設の改修 令和5年度：屋内飼育施設の改修
必要資金 調達方法	99百万円（内訳：49百万円（町費） 50百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ）※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応 等について検討します。

(事業番号6-②)

事業名	ウミガメエコツアー実施事業
事業内容	事業番号1-④で実施した調査、研究、設計に基づき、バックヤード等の改修工 事を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和4年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	観光協会と連携したエコツアーの造成数（2回／年）
必要資金 調達方法	28百万円（内訳：9.4百万円（町費） 18.6百万円（文化芸術振興費補助金（文化 庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金によ る対応等について検討します。

(事業番号6-③)

事業名	世界一の歴史を世界へ発信事業
事業内容	事業番号1-①を効果的に実現するため、展示、解説、グラフィック等、施設内の改 修工事を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和4～6年度
継続見込	なし
アウトプット	令和4年度：屋外展示の改修、令和5年度：屋内1階展示の改修

目標	令和6年度：屋内2階展示の改修
必要資金 調達方法	59 百万円（内訳：9 百万円（町費） 50 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））） ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号6-④)

事業名	体験型展示施設整備事業
事業内容	事業番号2-②を実現するため IT 機器等を活用した展示装置などで、参加体験出来る展示設備の整備を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和5～6年度
継続見込	入館料及び町の予算にて継続
アウトプット 目標	美波町への回帰率（5年後入館者の5%）
必要資金 調達方法	34 百万円（内訳：11.4 百万円（町費） 22.6 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号6-⑤)

事業名	来館者快適環境整備事業
事業内容	事業番号3-①で実施した調査、研究、設計に基づき、来訪者が快適に過ごせるような施設全体の改修工事を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和4～6年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	来訪者の満足度向上（日本人）73%→90%
必要資金 調達方法	248 百万円（内訳：198 百万円（町費） 50 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

(事業番号6-⑥)

事業名	キャッシュレス導入事業
事業内容	事業番号3-②を実現するため、現在の現金による対面チケット販売を見直し、インバウンド、ウイズコロナを見据え、キャッシュレス、チケットレスシステムの構築及び整備を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和5年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	来訪者の満足度（外国人）50%→80%
必要資金	4.7 百万円（内訳：1.6 百万円（町費） 3.1 百万円（文化芸術振興費補助金（文化

調達方法	庁))) ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。
------	--

(事業番号6-⑦)

事業名	海がみえるカフェ整備事業
事業内容	事業番号4-①で実施した調査、研究、設計に基づき、カフェスペースの整備を行います。
実施主体	美波町（うみがめ博物館カレッタ）
実施時期	令和4～6年度
継続見込	なし
アウトプット 目標	美波町への回帰率（5年後入館者の5%）
必要資金 調達方法	4.7百万円（内訳：1.6百万円（町費） 3.1百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和2年度	35 百万円	事業番号1-①	0.7 百万円	24 万円 (町費) 46 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-②	1.1 百万円	37 万円 (町費) 73 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-③	2 百万円	70 万円 (町費) 130 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-④	21 百万円	24 万円 (町費) 49 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) 1 百万円 (町費) 1 百万円 (地方創生推進交付金 (内閣府)) 18 百万円 (誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業 (観光庁))
		事業番号1-⑤	0.3 百万円	30 万円 (町費)
		事業番号1-⑦	0.6 百万円	60 万円 (町費)
		事業番号2-①	0.2 百万円	7 万円 (町費) 13 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号2-②	0.3 百万円	10 万円 (町費) 10 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号3-①	2.3 百万円	77 万円 (町費) 153 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号3-②	0.7 百万円	24 万円 (町費) 46 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-①	1 百万円	34 万円 (町費) 66 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-②	4.5 百万円	225 万円 (町費) 225 万円 (地方創生推進交付金 (内閣府))
		事業番号5-①	0.2 百万円	6 万円 (町費) 14 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和3年度	69 百万円	事業番号1-①	6.1 百万円	2.1 百万円 (町費) 4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-②	11 百万円	367 万円 (町費) 733 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-③	1 百万円	34 万円 (町費) 66 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-④	5.7 百万円	94 万円 (町費) 246 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) 1 百万円 (町費) 1 百万円 (地方創生推進交付金 (内閣府))
		事業番号1-⑤	0.3 百万円	30 万円 (町費)

		事業番号1-⑥	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号1-⑦	0.6 百万円	60 万円 (町費)	
		事業番号2-①	1.5 百万円	50 万円 (町費)	100 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号2-②	4.5 百万円	150 万円 (町費)	300 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号3-①	30 百万円	10 百万円 (町費)	20 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号3-②	0.8 百万円	27 万円 (町費)	53 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-①	1.4 百万円	47 万円 (町費)	93 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-②	4.5 百万円	225 万円 (町費)	225 万円 (地方創生推進交付金 (内閣府))
		事業番号5-①	0.2 百万円	6 万円 (町費)	14 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-②	0.1 百万円	5 万円 (町費)	5 万円 (地方創生推進交付金 (内閣府))
令和4年度	157 百万円	事業番号1-③	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号1-④	0.3 百万円	30 万円 (町費)	
		事業番号1-⑤	0.3 百万円	30 万円 (町費)	
		事業番号1-⑥	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号1-⑦	0.6 百万円	60 万円 (町費)	
		事業番号4-②	4.5 百万円	225 万円 (町費)	225 万円 (地方創生推進交付金 (内閣府))
		事業番号5-①	0.2 百万円	6 万円 (町費)	14 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-②	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号6-①	75 百万円	25 百万円 (町費)	50 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号6-②	28 百万円	10 百万円 (町費)	18 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号6-③	6.4 百万円	220 万円 (町費)	420 万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号6-⑤	40 百万円	1.4 百万円 (町費)	2.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和5年度	240 百万円	事業番号1-③	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号1-④	0.3 百万円	30 万円 (町費)	
		事業番号1-⑤	0.3 百万円	30 万円 (町費)	
		事業番号1-⑥	0.1 百万円	10 万円 (町費)	
		事業番号1-⑦	0.6 百万円	60 万円 (町費)	

		事業番号4-②	1.5百万円	150万円(町費)
		事業番号5-①	0.2百万円	6万円(町費) 14万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	0.1百万円	10万円(町費)
		事業番号6-①	23百万円	8百万円(町費) 15百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-③	38百万円	13百万円(町費) 25百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-④	19百万円	7百万円(町費) 12百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-⑤	152百万円	102百万円(町費) 50百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-⑥	4.7百万円	157万円(町費) 313万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
令和6年度	93百万円	事業番号1-③	0.1百万円	10万円(町費)
		事業番号1-④	0.3百万円	30万円(町費)
		事業番号1-⑤	0.3百万円	30万円(町費)
		事業番号1-⑥	0.1百万円	10万円(町費)
		事業番号1-⑦	0.6百万円	60万円(町費)
		事業番号4-②	1.5百万円	150万円(町費)
		事業番号5-①	0.2百万円	6万円(町費) 14万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	0.1百万円	10万円(町費)
		事業番号6-③	15百万円	5百万円(町費) 10百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-④	15百万円	5百万円(町費) 10百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-⑤	55百万円	19百万円(町費) 36百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-⑦	4.7百万円	157万円(町費) 313万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		合計	593百万円	

※国の予算事業等について記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討します。

8. 計画期間

令和2年度から6年度までの5年間

令和2年度 文化観光拠点施設としての機能強化を図るための調査、研究等
ホームページリニューアル開始、ウミガメ保護資料のデータベース化

令和3年度 文化観光拠点施設としての機能強化を図るため設計等、ホームページ更新、各種ツアーのモニター実施

令和4年度 屋外施設の整備等、エコツアーなど各種連携事業実施、ホームページ更新

令和5年度 1階フロアの整備等、エコツアーなど各種連携事業実施、ホームページ更新

令和6年度 2階フロアの整備等、エコツアーなど各種連携事業実施、ホームページ更新